

＜シンポジウム＞
魚類の生殖機構—基礎と応用—

日時・場所 平成 21 年 3 月 31 日 9:00～17:00

企画責任者：天野勝文（北里大海洋）・征矢野 清（長大海セ）・玄 浩一郎（水研セ養殖研）

09:00～09:05	開会の挨拶	天野勝文（北里大海洋）
	I. 配偶子形成に関わるホルモンの基礎	座長 天野勝文（北里大海洋）
09:05～09:35	1. 脳内生殖関連ペプチドホルモン	大久保聡範（東大院理）
09:35～10:05	2. 脳下垂体タンパク質ホルモン	玄 浩一郎（水研セ養殖研）
10:05～10:35	3. 生殖腺関連ステロイドホルモン	松山倫也（九大院農）
10:35～10:45	質疑	
	II. 水産重要魚種における配偶子形成の内分泌機構	座長 征矢野 清（長大海セ）
10:55～11:25	1. サケ科魚類	天野勝文（北里大海洋）
11:25～11:55	2. 海産魚類（サバ等）	北野 載（九大院農）
13:00～13:30	3. 難種苗生産魚類（ウナギ等）	井尻成保（北大院水）
13:30～14:00	4. 性転換魚類	小林靖尚（琉大熱研セ）
14:00～14:10	質疑	
	III. 水産増養殖への応用	座長 玄 浩一郎（水研セ養殖研）
14:20～14:50	1. 遺伝子工学的的手法による生殖関連ホルモン合成	小林牧人（ICU 生命科学）
14:50～15:20	2. 人為的操作による卵成熟・排卵誘導	征矢野 清（長大海セ）
15:20～15:50	3. 環境コントロールによる性統御	北野 健（熊本大院自然）
15:50～16:20	4. 発生工学的アプローチによる生殖細胞のコントロール	竹内 裕（海洋大先端科技研セ）
16:20～16:30	質疑	
16:30～16:55	IV. 総合討論	座長 天野勝文（北里大海洋） 征矢野 清（長大海セ） 玄 浩一郎（水研セ養殖研）
16:55～17:00	閉会の挨拶	征矢野 清（長大海セ）

企画の趣旨

水産増養殖を効率的に行なうためには、対象とする魚類の生殖機構を十分に理解することが重要である。基本的に魚類の生殖は、環境要因が脳—脳下垂体—生殖腺系に作用することによってコントロールされている。近年、内分泌的・分子生物学的知見の集積が進み、魚類の生殖機構の全貌が明らかにされつつある。そこで、これまでの知見を整理し、その研究動向をまとめるとともに、それらを水産増養殖技術の発展のために資することを目的として本シンポジウムを企画した。

提案年月日 平成 20 年 3 月 21 日

提案者 天野勝文（北里大海洋）・征矢野 清（長大海セ）・玄浩一郎（水研セ養殖研）

開催希望時期 平成 21 年度春季大会

水産学シリーズの印刷を希望する 編集者名 天野勝文・征矢野 清・玄浩一郎